

# 株式会社FOOD & LIFE COMPANIES

## 2023年度第1四半期

## 決算説明資料

2023年2月7日



**FOOD & LIFE**  
COMPANIES

# [連結] 業績ハイライト FY23/Q1 累計

- 売上収益：国内スシロー事業では、10月1日より価格改定を実施したことに加え、11月末までTVCM等のPR活動を自粛等あり厳しい状況、一方で海外スシロー事業で好調を維持、また京樽事業では回復の兆しが見える結果となった。
- 利益面：国内スシロー事業におけるマイナスが主要因、結果として前年同期比で営業利益以下大きくマイナスとなる。  
(EBITDA率の高い海外スシロー事業の構成比の増加により、マイナス幅は抑制)

	FY22/Q1		FY23/Q1		前期比	計画比 <sup>(2)</sup>
	実績	売上比	実績	売上比		
(単位: 百万円)						
売上収益	71,601	—	68,004	—	▲ 5.0%	21.3%
EBITDA <sup>(1)</sup>	8,116	11.3%	5,030	7.4%	▲ 38.0%	—
営業利益	5,469	7.6%	1,570	2.3%	▲ 71.3%	14.3%
税前利益	5,255	7.3%	1,078	1.6%	▲ 79.5%	11.3%
当期利益	3,389	4.7%	713	1.0%	▲ 79.0%	11.9%
売上原価	33,668	47.0%	30,223	44.4%	▲ 2.6pt	—
店舗数	1,027	—	1,110	—	83	—

[Note] (1) EBITDAは、営業利益に 減価償却費及び償却費（使用権資産の減価償却を除く）、減損損失を調整。

(2) 「計画比」は、2022年11月4日に公表した FY23/9 予想比

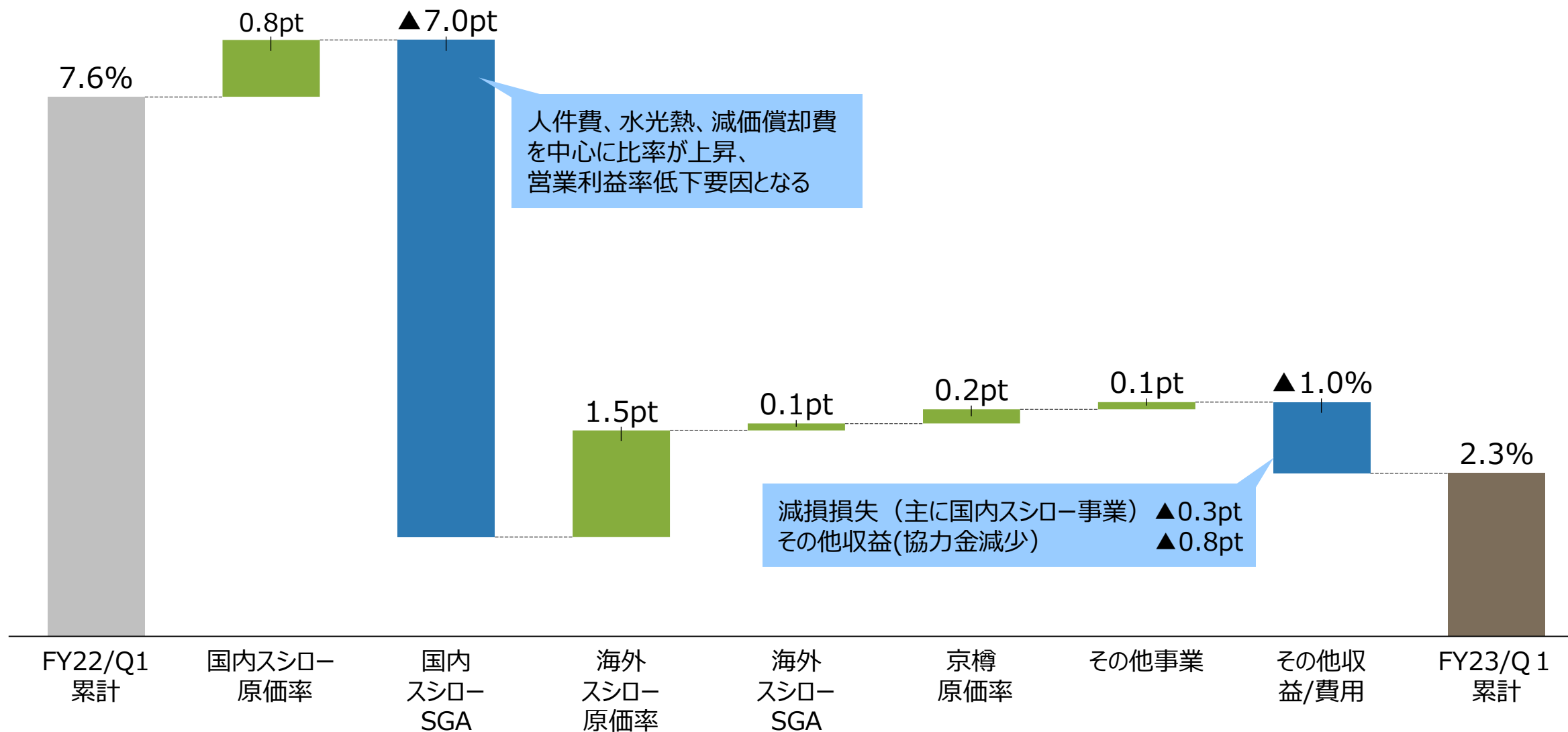
# [連結] 業績ハイライト (セグメント別) FY22/Q1累計 対比

- 国内スシロー事業：既存店昨対売上については10月以降81.5%、74.8%、77.7%となり売上収益が大きくマイナスとなった事に加え、水光熱等を中心としたコスト上昇により営業利益率が低下。
- 海外スシロー事業：ゼロコロナ政策により厳しい営業規制を受けた中国大陸を除いた全エリアにて増収増益を達成。売上構成比は20%超となり、また利益についても大きく貢献、着実な成長を示すことが出来た。
- 京樽事業：「回転寿司みさき」が牽引し、業績は回復トレンドにあり増収増益を達成。

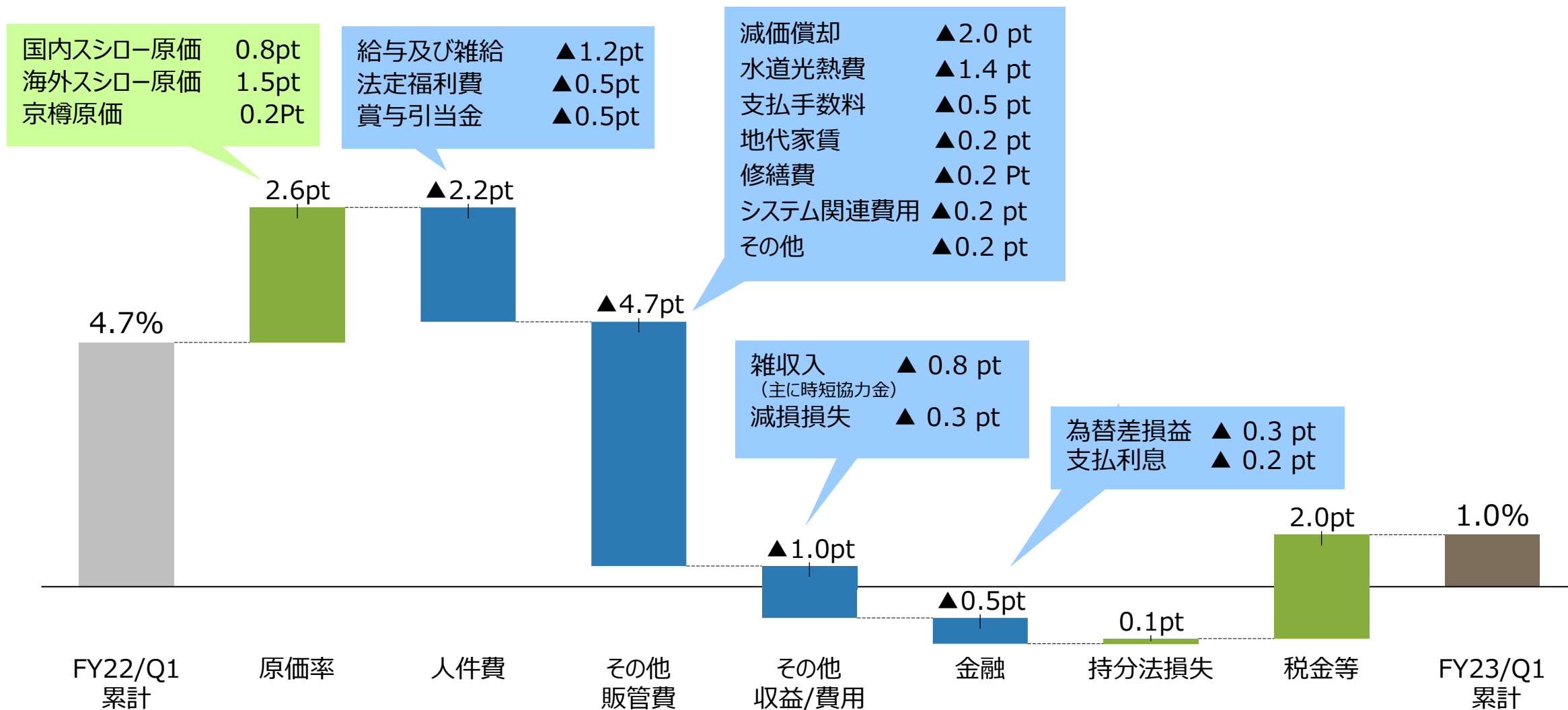
	国内スシロー事業			海外スシロー事業			京樽事業			その他事業		
	FY22 Q1	FY23 Q1	増減率 (増減数)	FY22 Q1	FY23 Q1	増減率 (増減数)	FY22 Q1	FY23 Q1	増減率 (増減数)	FY22 Q1	FY23 Q1	増減率 (増減数)
(単位: 百万円)												
<b>売上収益</b>	57,424	46,680	▲18.7%	7,493	13,845	84.8%	5,708	6,213	8.8%	977	1,265	29.5%
<b>EBITDA</b>	6,438	3,791	▲41.1%	1,071	2,489	132.4%	▲127	49	—	▲87	52	—
<b>営業利益</b> (ロイヤリティ支払い前)	4,762	1,437	▲69.8%	605	1,521	151.4%	▲467	13	—	▲233	19	—
<b>減価償却費 及び償却費</b>	3,842	4,051	5.4%	840	1,614	92.2%	384	400	4.1%	86	151	76.0%
<b>減損損失</b>	292	861	194.6%	72	98	36.4%	303	26	▲91.6%	130	—	—
<b>店舗数</b>	626	636	(10)	64	102	(38)	290	298	(8)	47	74	(27)

\* 連結合計営業利益とセグメント別営業利益の合計の差額は、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用

# [連結] 営業利益 変化要因分析 FY22/Q1 累計 対比



# [連結] 当期利益 変化要因分析 FY22/Q1 累計 対比



# [海外] スシロー 地域別 売上・EBITDA

(百万円)	FY23/Q1			前年同期比		
	実績	海外総売上における 売上比率	地域別の売上における EBITDA比率 <sup>(1)</sup>	増減 (額)	増減 (率)	為替影響を除く 実質成長率
<b>海外 売上収益</b>	<b>13,845</b>	—	—	<b>+ 6,352</b>	<b>+ 84.8%</b>	<b>+ 58.5%</b>
韓国	619	4.5%	—	+ 182	+ 41.7%	+ 30.8%
台湾	4,154	30.0%	—	+ 1,309	+ 46.0%	+ 32.1%
香港	5,222	37.7%	—	+ 2,409	+ 85.6%	+ 50.0%
シンガポール	1,230	8.9%	—	+ 602	+ 96.0%	+ 61.2%
タイ	1,680	12.1%	—	+ 1,117	+ 198.2%	+ 161.4%
中国大陸	940	6.8%	—	+ 733	+ 354.3%	+ 306.9%
<b>海外 EBITDA</b>	<b>2,489</b>	—	<b>18.0%</b> <sup>(1)</sup>	<b>+ 1,418</b>	<b>+ 132.4%</b>	<b>+ 95.1%</b>
韓国	68	—	11.1%	+ 66	+ 2,532.2%	+ 2,330.1%
台湾	691	—	16.6%	+ 312	+ 82.2%	+ 64.9%
香港	1,357	—	26.0%	+ 764	+ 128.9%	+ 84.9%
シンガポール	300	—	24.4%	+ 237	+ 376.4%	+ 291.7%
タイ	384	—	22.8%	+ 305	+ 391.0%	+ 330.4%
中国大陸	▲ 311	—	—	▲ 266	前期当期マイナス	前期当期マイナス

# [海外] スシロー: 海外100店舗を達成。中国のコロナ影響を除き業績堅調



## 韓国

コロナ影響：小

業績

10月末のイテウォン事件発生後、国家哀悼期間による売上低下があったものの、その後は順調に回復。

課題

コロナ禍からの人員不足が依然継続しており、福利厚生見直し等の施策を実行していく。原価高騰への対策も課題。

店数<sup>(1)</sup> **9** /10 店舗 (+0)



## 香港

コロナ影響：中

業績

コロナ禍を経ての顧客行動の変化により、集客が若干の減速。原価コントロールにより損益面は好調。

課題

短期的には春節の需要を確実に獲得すべく各種施策を実行する一方、中長期的な集客改善策に取り組む。

店数 **19** /25 店舗 (+2)



## タイ

コロナ影響：小

業績

積極的なSNS販促が売上増に大きく寄与。FLコントロールが出来ており損益面も好調。

課題

郊外店舗の売上改善と、利益を確保できる効率的な事業モデル検討が必須。

店数 **13** /17 店舗 (+2)



## 台湾

コロナ影響：小

業績

積極的なメディア活用・販促が売上貢献。原価コントロールも奏功し、損益も好調に推移。

課題

好待遇の半導体メーカー等他業種への人員流出があり、欠員防止策が必須。サーモン等の原価高騰も要対応。

店数 **34** /42 店舗 (+4)



## シンガポール

コロナ影響：小

業績

慢性的な人員不足という課題はありつつ、オペレーション改善によりコロナ規制解除後の需要を獲得。売上・損益ともに堅調。

課題

欠員防止には継続的に取り組みつつも、高騰する地代家賃への対応が今後の更なる取組み課題。

店数 **11** /13 店舗 (+0)



## 中国大陸 (広州、深圳、成都)

コロナ影響：大

業績

いずれの地域もコロナによる営業規制・感染拡大を受け大きく減収。

課題

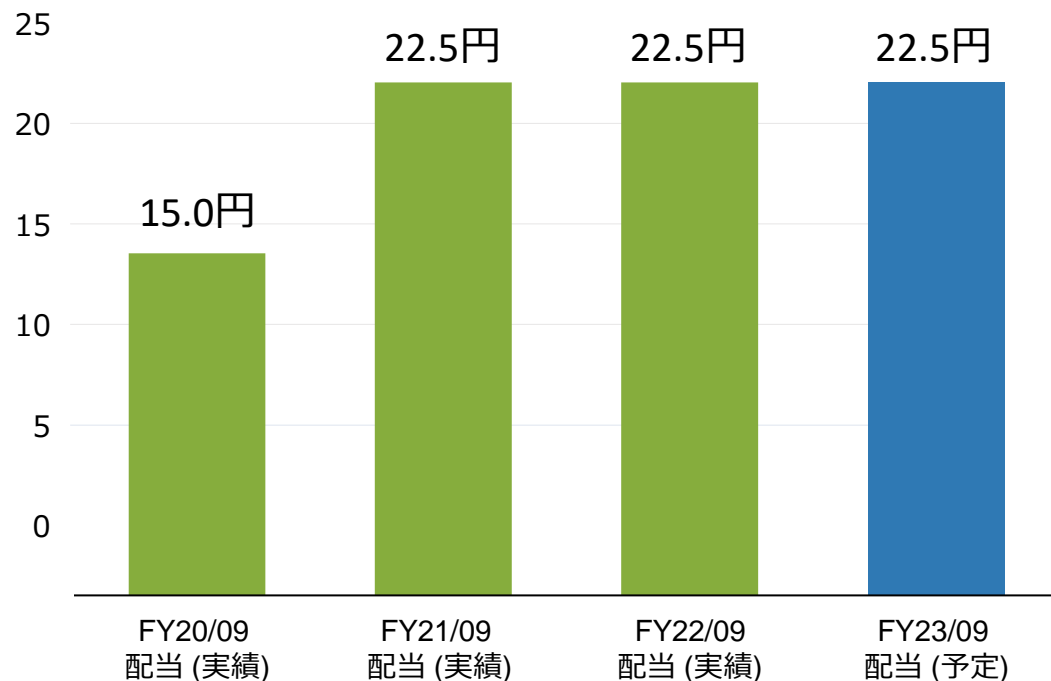
1月以降の売上は強い回復傾向にある。春節需要の確実な獲得が直近の課題。

店数 **15** /39 店舗 (+6)

# 株主還元について

## 配当

- 2020年4月1日に1株につき4株の割合で株式分割を実施（過去実績も分割後に合わせて記載）
- 2023年9月期は1株当たり22.5円の配当を予定



## 株主優待

### 種類

国内のスシロー・杉玉全店舗・(株)京樽が運営する全ブランド（※一部店舗を除く）で利用できる優待割引券

### 保有株数/ 贈呈金額

※贈呈金額は  
2021年3月末日  
基準日以降分

以下の保有株式数に応じて、年2回、国内店舗で利用可能な優待割引券を贈呈。

- 100株 ~ 199株: 年間 2,200円分**  
1,100円（9月末日基準日）、1,100円（3月末日基準日）
- 200株 ~ 399株: 年間 3,300円分**  
1,650円（9月末日基準日）、1,650円（3月末日基準日）
- 400株 ~ 799株: 年間 4,400円分**  
2,200円（9月末日基準日）、2,200円（3月末日基準日）
- 800株 ~ 1999株: 年間 8,800円分**  
4,400円（9月末日基準日）、4,400円（3月末日基準日）
- 2,000株 ~ : 年間 22,000円分**  
11,000円（9月末日基準日）、11,000円（3月末日基準日）

### 使用 条件

- 会計金額1,100円（税込）毎に550円の優待割引券のご利用が可能
- 他の割引券との併用可能
- ネット注文・デリバリーではご利用頂けません。

# 參考資料

---



**FOOD & LIFE**  
COMPANIES

# [連結] 財務状況

## 連結財政状態計算書

(単位：百万円)	FY22/9	FY23/Q1	増減
<b>流動資産</b>	67,993	66,945	▲1,048
[現預金]	[50,637]	[44,888]	[▲5,749]
<b>非流動資産</b>	263,990	263,541	▲448
[のれん]	[30,371]	[30,371]	[-]
<b>資産</b>	331,982	330,486	▲1,496
<b>流動負債</b>	54,067	76,437	22,371
[借入金]	[4,009]	[23,985]	[19,976]
<b>非流動負債</b>	212,781	191,622	▲21,159
[社債及び借入金]	[88,923]	[67,950]	[▲20,973]
<b>負債</b>	266,848	268,060	1,212
<b>資本</b>	65,134	62,427	▲2,708
<b>負債資本</b>	331,982	330,486	▲1,496
<b>自己資本比率</b>	19.3%	18.5%	▲0.8
<b>Net Debt/EBITDA</b>	2.0x	2.4x	0.4x

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	FY22/Q1	FY23/Q1	増減
<b>営業CF</b>	8,139	6,459	▲1,681
<b>投資CF</b>	▲4,437	▲4,123	314
<b>財務CF</b>	▲8,864	▲7,571	1,293
<b>キャッシュ増減</b>	▲4,957	▲5,749	▲792

### ■連結BS

資産：(主な増加) 営業債権 (主な減少) 現預金  
 負債：(主な増減) 社債及び借入金の非流動から流動への振替  
 資本：(主な増加) 四半期利益 (主な減少) 配当支払

### ■連結CF

営業CF：営業債権等増加額FY22/Q1比47億円増加、税引前利益41億円減少、一方で法人支払額65億円減少  
 投資CF：出店/省人化投資継続により投資支出増加 (海外投資比率52%)  
 財務CF：FY22/Q1は自己株式取得支出19億円あり、リース負債返済支出7億増加

### ■経営指標

自己資本比率 及び NetDebt/EBITDA共に低下 (直近12カ月EBITDA実績値を使用)  
 ROEについてはFY22/Q1：5.4%→FY23/Q1：1.1%と低下 (減益の影響)

# [全社] 国内・海外の店舗数推移

			FY22	FY23/Q1			期末 店数
			期末 店数	OPEN	CLOSE	増減	
外食	スシロー	日本	626	8	1	7	633
		韓国	9	-	-	-	9
		台湾	30	4	-	4	34
		香港	17	2	-	2	19
		シンガポール	9	-	-	-	9
		タイ	11	2	-	2	13
		中国大陸	9	6	-	6	15
		広州	8	3	-	3	11
		深圳	1	1	-	1	2
		成都	-	2	-	2	2
	杉玉 <sup>(1)</sup>	日本	67	5	-	5	72
	海外	1	-	-	-	1	
	回転寿司みさき／三崎丸	日本	103	-	-	-	103
テイクアウト	スシロー	日本	18	-	1	▲ 1	17
		海外	2	-	-	-	2
	京樽	日本	123	-	-	-	123
	マルチブランド	日本	35	1	-	1	36
その他			23	2	1	1	24
合計			1083	30	3	27	1110



**FOOD & LIFE**  
COMPANIES

## 本件に関する注意事項

---

本資料は、株式会社FOOD & LIFE COMPANIES（以下「当社」）の企業情報等の提供のために作成されたものであり、日本、米国その他の法域における当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

当社は、本資料に含まれる情報または意見の公平性、正確性、完全性または正当性について、明示的または黙示的に表明または保証をするものではありませんので、これらに依拠することのないようお願いいたします。本資料の使用または内容等に関して生じたいかなる損害について、当社は一切の責任を負いません。また、本資料の内容は事前の通知なく大幅に変更されることがあります。

本資料は、本資料の作成時点における業界、市場動向または経済情勢等に基づき作成されたものであり、その後に発生する事象に基づき影響を受ける可能性があります。当社は、それらの情報を最新のものに更新するという義務を有していません。

本資料には、当社の現在の見通し、予想、目標、計画などを含む将来に関する見通しが含まれています。このような将来に関する見通しは、経営陣による将来の業績の保証を表すものではありません。これらの見通しは、将来の予想を議論し、戦略を特定し、経営成績または当社の財務状態の予測を含み、または当社の事業および業界、将来の事業戦略ならびに将来において当社が営業を行う環境に関する当社の現在における予想、想定、見積もりおよび予測に基づくその他の将来に関する情報を記載するものです。既知および未知のリスク、不確実性およびその他の要因により、当社の実際の業績は、将来に関する見通しに記載されまたは示唆されるものとは大幅に異なる可能性があります。当社は、これらの将来に関する見通しに記載される予想が正確なものであることを保証することはできません。実際の業績は予想とは大幅に異なる可能性があります。